

第13回 リバーフロント整備センター研究発表会

平成17年9月16日、科学技術館サイエンスホール（東京都千代田区）にて「第13回リバーフロント整備センター研究発表会」を開催しました。

この研究発表会は、当センターの水辺空間に関する調査研究の成果をPRするとともに、最近の話題を紹介し河川技術者の啓発の場とすることを目的としています。

今年度の研究発表会は、東京大学大学院教授の篠原修氏の御講話のほか、昨年度の当センターの研究成果を10編発表しました。

○研究発表の内容

- ・トキの野生復帰を支援する川づくり
- ・チスジノリがよみがえる川づくりに向けた検証実験方策の検討（兵庫県安室川）
- ・信濃川下流域における魚類を中心としたエコロジカルネットワークの再生について
- ・環境に配慮した川づくり計画の立案方法について
- ・河川水辺の国勢調査
－全体調査計画策定の試行について－

研究第一部 主任研究員 遠井 文大

- ・河川環境資料の有効な活用に関する検討
- ・高規格堤防と土地区画整理事業との一体的整備の地元合意形成のプロセス等について
- ・多摩川景観計画について
- ・河川における効果的な情報提供手法の検討について
- ・国際的な情報ネットワーク構築に向けた検討

上記の研究発表内容のほか、昨年度の研究成果をとりまとめた「リバーフロント研究所報告」につきましては当センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧下さい。（<http://www.rfc.or.jp/>）



発表の様子

河川環境展2005

「河川環境展2005」が、平成17年11月29日～12月2日の4日間、幕張メッセ（日本コンベンションセンター）にて開催されました。この河川環境展は、安全で美しい河川環境の実現と理解を目指す趣旨のもとで1998年の創設以来、今年で8回目を迎えております。

展示については、「河川流域管理技術／基礎観測技術」・「水環境保全技術」・「河川環境保全技術」・「災害復旧（防災）技術」・「住民参加と環境教育」の5つのテーマに分かれ、企業・行政・各種団体等51社による出展、企画展示としては、体験型の環境教育ミュージアム、様々な疑問質問に答える川のなんでも相談コーナー、大学・研究所等の様々な研究を紹介する川の掲示板のコーナーが設置されました。また、これらの展示に伴い、30日には河川環境展2005併催シンポジウムが開催され、「美しい河川環境を求め

研究第一部 主任研究員 森 洋

て－自然環境に配慮した川づくりの今後－」をテーマとして、島谷幸宏氏や李三畏氏の基調講演及びパネルディスカッションが行われました。4日間で約1万人もの来場者があり盛会のうちに閉会いたしました。

当センターでも河川環境保全ゾーンに出展ブースを設け、「自然再生」や「河川景観」をテーマとしたパネルや模型の展示、当センターで発行・編集している書籍の販売を行いました。ご来場いただいた方々に、自然再生の川づくりとは何か、また、当センターにおける様々な取り組みについて、少しでも知っていただけたのではないかと考えております。

この河川環境展2005の詳細につきましては、河川環境展実行委員会のHP（<http://www.kasen.gr.jp/>）をご覧ください。



開会式（テープカット）



会場の様子



当センターの出展ブース